巻頭特集

奥が深い世界をのぞき見！

ご当地マンホール

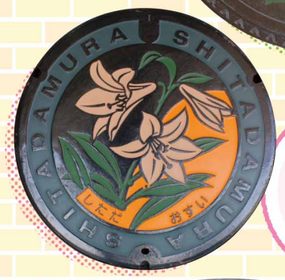
路上のアート

普段は何気なく目にしているマンホールに、街の特産品や名所旧跡が描かれていることをご存知ですか？これらは〝ご当地マンホール〟と呼ばれ、本来の蓋としての役割だけでなく、街のアピールにも一役買っています。今回はそんなマンホールの魅力を紹介します。

●マンホールを撮影する際の注意点
●車道に飛び出ないようにしましょう。
●子どもが撮影する場合は、かならず大人が付き添いましょう。

空を飛ぶ「ツバメ」と「菊」、それらを取り囲むように「松」を配置。カラーマンホールは、燕市駅前の歩道に多く設置しています。

市の花「雪椿」を赤と白で表現。加茂山公園一帯には園芸品種を主に約100種、1300本もの雪椿を植栽しています。



図柄は旧村の花「ヒメサユリ」。下田の高城城址は群生地として知られ、満開のころには多くの人の目を楽しませています。

フリモARで県内のマンホールを一挙公開！

工具がモチーフ。万治元年(1658)には鍛冶職人が暮らす「鍛冶町」があり、和釘や刃物類を製造していたそう。

写真が動く！フリモAR®
Available on the App Store　Google play で
フリモAR®を検索

動画閲覧期間は1ヵ月です。7月号は6/23(金)～7/24(月)まで。

デザイン化のはじまりがやがてブームに

工具、ヒメサユリ、ツバメ、雪椿……これらはすべて三条市、燕市、加茂市のマンホールに描かれているモチーフです。地域の名産や産業、景勝地が描かれたいわゆる〝ご当地マンホール〟が誕生したのは、昭和60年代のこと。当時の建設省が下水道事業のイメージアップと市民へのPRのためにさまざまな自治体に働きかけ、独自デザインのマンホールの使用を促したのが始まりだそう。

路上観察の楽しみとして一部の愛好家たちの密かなブームでしたが、その後ブログやSNSなどで全国各地のカラフルなマンホールが紹介されるようになり、それらを「可愛くてオシャレなモノ」として魅力を感じる〝マンホール女子〟も急増。マンホールを写真に撮って収集する楽しみもあり、旅行がてらに街を訪れるきっかけにもなっているそうです。各地で開催される関連イベントには多くの人が集まり、ユニークなグッズも販売されています。そして平成28年には、全国各地の意匠を集めた「マンホールカード」が〈下水道広報プラットホーム(GKP)〉より発行。現在県内で配布を行っているのは新潟市、村上市、小千谷市の3市のみですが、今後他の自治体が参加することも予想され、ますます注目が集まっています。

マンホール越しに見る街の歴史と文化

三条市のマンホールのモチーフとなっているのは、ベンチャスパナなどの工具類。三条市における鍛冶の歴史は古く、寛永年間、代官所奉行・大谷清兵衛が江戸から鋳物職人を呼び、貧困にあえぐ農民の副業として和釘作りを推奨したのが始まりとされてきました。近年では室町時代に〝大崎鋳物師(おおさきいもじ)〟と名乗る職人集団が活躍していたことが、西大崎2丁目にある「下町遺跡」の発掘により明らかになっています。

平成18年に吉田町、分水町と合併した燕市のモチーフは、5羽のツバメと市の花「菊」そして旧市の木「松」。中央には旧市の市章があしらわれています。昔々、中ノ口川が今よりももっと大きな川だったころ、上流から祠(ほこら)が流されてきました。その祠を守るかのようにツバメが群がっており、それを不思議に思った村人が川から引き上げ、村の守り神として大切に祀りました。このことから〝ツバメの村〟と呼ばれるようになり、市名の由来の一つになったという言い伝えがあります。

加茂市のマンホールに描かれているのは、市の花「雪椿」。市民の憩いの場として愛される加茂山公園一帯は雪椿の群生地として知られ、園芸品種と野生種の両方が見られるそう。毎年4月には「雪椿まつり」も開催され、多くの観光客が足を運ぶ人気イベントとなっています。

平成17年に三条市と合併した旧下田村、旧栄町、また平成18年に燕市と合併した旧分水町、旧吉田町では、今でも旧村・町時代のマンホールを見ることができます。合併して元の村や町の名前がなくなっても、道路にはまだそのなごりをとどめています。脈々と受け継がれてきた地域の歴史を感じ取れるという意味で、このようなマンホールは貴重な存在だと言えるかもしれません。

イベントに参加してマンホールを楽しもう！

このように魅力たっぷりのマンホールは、今さまざまな広がりを見せています。三条市では、8月にまちなかの〝工具マンホール〟がどこにあるのか探して地図を作るイベントを開催。小学生を対象としており、夏休みの自由研究にもお薦めです。燕市でも9月10日(日)の「下水道の日」にちなみ、処理場施設の一般開放やカラーマンホールの展示を同日に予定。汚水が浄化される仕組みが見学できるので、下水道に関する理解も深まりそうです。

このようなイベントに参加すれば、マンホールをより一層身近に感じられるはず。維持・管理を行う際の点検口の役割を持つマンホールは直径60センチが一般的ですが、同じデザインでも雨水管、汚水管など用途に合わせてサイズの違いがあり、見比べてみるのも楽しみの一つとなっています。

今やインターネットで全国各地のマンホールを瞬時に見ることができますが、自分の足で歩いて、楽しいデザインのマンホールに出会う喜びは格別なもの。見なれた街の風景も、違って見えてくるのが不思議です。今度のお休みの日には〝路上のアート〟を探しに、いつもとは違った視点で街歩きを楽しんでみませんか？

取材協力／三条市上下水道課、燕市都市整備部下水道課、加茂市下水道課、弥彦村建設企業課、下水道広報プラットホーム(GKP)

東京スカイツリーと同じ634mの弥彦山とロープウェイ、「桜」、競輪をデザイン。日本で唯一村営の公営競技場を持つ同村ならでは。

三条の市章を中心に、市の木「五葉松」をレイアウト。県内屈指の歴史を誇る植木と盆栽の産地・保内らしさにあふれたデザイン。

モチーフは旧町の花「花菖蒲(ハナショウブ)」。栄地区東部の〈しらさぎ森林公園〉では、20万本もの花菖蒲が咲き誇ります。

描かれているのは、旧町の花「バーベナテネラ」と、マスコットの「バーベナちゃん」。元気あふれる愛らしい一枚。

旧町の木「桜」と大河津分水可動堰、そして子ども好きの良寛がともに遊んだ手まり。雄大な川の流れを感じられる秀逸な図柄です。

マンホールができるまで

1 電気炉で1500℃以上に熱した湯(溶かした金属)を取鍋に移します。これを"出湯(しゅっとう)"といいます。

2 三条市で使用されている鋳型(いがた)。湯を鋳型の隅々まで注ぐ"注湯(ちゅうとう)"を行います。

3 注湯後、約2時間かけて自然冷却した蓋から、鋳型と余計な部分を取り除き、加工します。

4 加工を終えた蓋を、粉体塗料で塗装。蓋を200℃の窯で焼き、塗料を焼き付けます。

5 製造過程の行程で採取したサンプルを使用して材質・製品検査を行い、完成です。

EVENT

夏休みだよ！ご当地マンホールを探せ!!
～下も向いて歩こう♪～

まちなかの"工具マンホール"がどこにあるのか探して地図を作ろう！ 完成した地図はイベント参加者全員の氏名を掲載の上、製本して配布されます。

日時 8/1(火) 9:00～12:00
中央公民館(三条市元町13-1)

地図配布会 8/24(木) 9:00～

【対象】小学生　【定員】先着30名
※低学年は保護者の同伴が必要。1グループ5人以内で申込み可。
【申込方法】申込用紙をホームページからダウンロードし必要事項を記入の上、メール、ファックス、または三条市上下水道課(三条市荻堀830-1)まで持参を。
FAX　0256-46-4990
メール　jougesuido@city.sanjo.niigata.jp
【申込期間】7/3(月)～20(木)
【問合せ】三条市上下水道課　☎0256-46-5900
www.city.sanjo.niigata.jp/jougesuido/index.html

マンホールクイズ

地域の特徴を意匠から読み解くことができるのが、マンホールの魅力。どの市のものかわかりますか？

①

ヒント 市の花「ツツジ」、城、花火、馬高遺跡で出土した「火焔土器」が描かれています。

②

ヒント 市の花「あやめ」と市の木「桜」をデザイン。別名"菖蒲城"が有名です。

③

ヒント 図柄は「白鳥」と「ハスの花」。"日本三大夜桜"で知られる公園が市の中心にあります。

答えはP31の「表紙の言葉」をご覧ください。

マンホールカード

〈GKP〉のカード制作リーダー・山田秀人さんのコメント

マンホールには、その土地にゆかりのあるデザインが込められています。ぜひお手元に集めて楽しんでください。

8月には第5弾を予定！